

郷土研通信



発行：てしかが郷土研究会 (Teshikaga Regional Studies Association)
北海道川上郡弟子屈町中央3丁目2-10 (松橋方)

文章責任：松橋 秀和

イソツツジ
アイヌ語名
ハシボ 一茎葉 (屈斜路)
(アイヌ語アーカイブから)
写真：『阿寒・摩周の植物』細川音治・著

近況報告

感謝状を受領

先に種市佐改資料などを収蔵する本棚を町に寄贈しましたが、この度その行為に対する感謝状を弟子屈町長からいただきました。

水越武写真展終了

五月二十八日から開催された写真展「知床 残された原始」が六月二十九日で終了しました。

特別講演収録集発行

二〇二五（令和七）年三月例会で金井秀明氏の「弟子屈に来れば北アメリカ北西部の植生が見られる」の講演を収録した冊子を小林会員が文字に起し、会員に配布されました。

金井氏がお話しされたことをお聴きしただけでは記憶としては残りますが、記録することによって後まで残り、

一回目は「春・夏」、二回目は「秋・冬」をテーマに、延べ二二日間の開催で、来観者の総計は約五〇〇名でした。

当てにしていただけた助成金が不採択になるハプニングがありました。多くの協賛者のご厚意や後援、弟子屈町の支援と会員の熱意で当初の目的を達成することができました。詳しい結果は後日お知らせします。

反省点は、SNS等のメディアを活用するなど開催告知（宣伝）の方法を工夫すれば、より多くの来場者が来られて、水越氏の作品

読み返すことで何事かを考へるときヒントを得られることにつながります。



を鑑賞することができたのではないかと、思いました。



勉強会

「てしかがの一年をふりかえる」弟子屈町公式チャンネルから

講師 川上椋輔会員

郷土研通信21号でお知らせしていた内容を急遽変更しての運びとなりました。

川上会員は、地域おこし協力隊員として、町の話題を動画で記録し、それを「弟子屈町公式チャンネル」そしてSNSで配信されてきました。隊員の任期満了後も町に残り公職に就かれるなどして活動を続けています。

次回の例会

令和七年七月二三日（水）

一九：〇〇

ふるさと歴史館

勉強会

「更科源藏

ジンギスカン事件」

講師 松橋秀和

アジア太平洋戦争敗戦後一三年、

やんごとなきお方との一コマを紹介

町の今を記録することで、数年後に見返して町がどう変化してきたのか、これらはどうしなければならぬのかなど考える材料になり、数十年後には確かな歴史資料となる、と語られました。

拝聴した会員からは、映像（写真・動画）や記録資料を適切に保存・管理し、それを再活用することの重要性を痛感した、と感想がありました。

むかしむかし写真館

No.355

我が家のアルバムから No.1 「更科源藏」氏の写真

小林 俊夫

祖父から父に引き継がれた弟子屈町に関連するアルバムが現在数冊あります。2004年(平成十六)年三月に弟子屈町が発刊した「風・人・大地」にも教枚提供しました。祖父と父は教員だったため学校関係の写真が多く、当時は卒業式や入学式など学校行事には記念写真として残しています。しかし、その写真が何時何処で誰が撮ったのか、写っている方々が誰なのかなど不明な写真も多くあります。

今回は「更科源藏」氏の写真を取り上げました。氏が代用教員として教鞭をとっていたこともあり親しくしていたことから、教枚の写真が残されていました。おそらく今まで公開されていなかったと思われる「更科源藏」氏の写真を紹介します。

この写真は、葉をかたどった中に背広姿でおしゃれな雰囲気を出していますが、いつ頃どんな目的で撮影したのか分かりません。父は本人から貰った写真といっていました。珍しい写真と言えます。このような写真が流行していたのかも知れません。昭和初期で二十歳代頃と思われます。



この写真は昭和初期。村内の学校対抗試合の開会式か閉会式の写真と思われます。出席者の顔ぶれを見ると、右側から小林六郎(祖父)、青木貞行村長、城尾義三弟小校長、更科源藏の姿が確認出来る。右側の大きな造花は「竹馬会」から贈呈されています。この会は、昭和九年弟子屈尋常小学校開校三十周年記念を期に発足した青年団体で、町内清掃や映画上映会等のボランティア活動をしていました。会員として本山松右エ門・安部實・更科源藏・橋田吉萬・高橋辰造・宮越瀬・高橋拓・本山正・西澤謙の名前が記されています。



※写真をご覧になって、何か思い出されたことがありましたらご連絡下さい。

この写真は、1937(昭和十二年一月五日)に行われた「弟子屈小学校同窓会」の記念写真です。写真には万年筆で名前が上書されています。2列目右側から阿倍・小林(父)・宮崎・吉井・横田・佐藤(操)・城尾(義三)・小林(祖父)・更科源藏・横田・宮越・高田(辰藏)・錦織(俊介)・藤田と書かれています。



※「本町に関する古写真」の無償提供をお願いしております。(コピーして返却致します)

てしかが郷土研究会